令和７年度第３回川崎市上下水道事業経営審議委員会　会議録

【開催日時】
令和７年１０月１５日（水）１５：３０～１７：１０

【開催場所】
川崎市役所南庁舎１８階大会議室
※オンライン（Zoom）併用開催

【議題】
（１）川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）の進捗管理について
（２）次期上下水道ビジョン・中期計画の策定について

【出席者】
（１）委員会委員（敬省略）※オンライン出席者
磯貝和敏※、鎌田素之※、長岡裕、中野英夫、西川雅史※、見山謙一郎※、石山一可、岩澤達夫、島田典子、舘克則、平井めぐみ、伊藤真冬※、山下美穂

（２）上下水道局職員
上下水道事業管理者、担当理事・下水道部長、経営戦略・危機管理室長、総務部長、総務部担当部長（財務担当）、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部担当部長（下水道施設）、経営戦略・危機管理室担当課長〔経営戦略・企画調整〕、庶務課長、財務課長、財務課担当課長〔下水道財務・財源〕、サービス推進課長、水道計画課長、下水道計画課長

【傍聴者】
０人

【議事内容】
次のとおり

事　務　局（経営戦略・危機管理室長）　それでは定刻となりましたので、令和７年度第３回川崎市上下水道事業経営審議委員会を始めます。私は、事務局を務めます、経営戦略・危機管理室の森川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
本日の会議につきましては、オンラインと併せての開催となっておりまして、磯貝委員、井出委員、鎌田委員、西川委員、見山委員、伊藤委員におかれましては、オンラインで御出席となっております。
オンラインで御出席の皆様、音声は聞こえておりますでしょうか。ありがとうございます。
なお、本日の会議でございますが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第３条の規定に基づき、公開といたしますので御了承願います。また、会議終了後、議事録を

作成いたしますが、こちらも原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員に内容を確認していただいたのち、確定させてまいりたいと考えております。オンラインで御出席の皆様につきましては、御発言の際は、ビデオを開始し、御挙手いただくか、挙手ボタンを押していただきますよう、お願いいたします。委員長から指名いたしますので、御発言をお願いいたします。

また、御発言の際には、オンライン出席者にも声が聞こえるよう、マイクを近づけて御発言くださるようお願い申し上げます。それでは、次第に沿って進めます。

はじめに、白鳥上下水道事業管理者からごあいさつを申し上げます。

事業管理者　上下水道事業管理者の白鳥でございます。

本日はご多用のところ、御出席いただきまして誠にありがとうございます。本年度３回目の経営審議委員会の開催にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

本日の議題でございますが、まず１つ目は、現行の「上下水道事業中期計画」の進捗管理ということで令和６年度実施結果を御説明させていただきます。２つ目といたしましては、「次期上下水道ビジョン・中期計画の策定」です。こちらがメインの議題となりまして、前回は12年間にわたるビジョンの素案をお示しし、御意見を賜りました。今回は今後４年間の取組を規定します中期計画の素案をお示しします。前回のビジョンと違い具体的な取組内容を記載しておりますので、そちらも御意見いただきたいと思っております。さらに、市民の皆様にご覧いただきたいということで、ビジョンと中期計画の概要版も作成しております。こちらも併せて御説明させていただきます。概要版は、分かりやすいか、見たいと思うかという観点で御意見いただけたらと思います。本日も限られた時間ではございますが、皆様の率直な御意見を賜りたいと考えております。

開催にあたりまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（経営戦略・危機管理室長）　次に長岡委員長から一言ごあいさつをいただければと存じますので、長岡委員長よろしくお願いいたします。

長岡委員長　委員長を務めております長岡です。本日もよろしくお願いいたします。

ただ今管理者からお話がありました、「次期上下水道ビジョン」と「中期計画」の策定ですが、やはり市民の皆様がどのように思っているのか、どのような関心を持っているのかを踏まえなければと思っております。本日の資料の中でも関心度のパーセンテージが記されていますが、やはりこのような内容は局としても積極的に取り組まなければいけないと思っております。

また９月ごろに大阪万博へ行きまして、否定的な報道に惑わされたこともありましたので、ＳＮＳなどのいろいろな情報の中で正しい情報を集めることの大切さを、身をもって感じました。

本日は専門家だけではなくさまざまな立場の方がいらっしゃいますので、本日も活発な御議論をお願いしたいと考えております。

簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（経営戦略・危機管理室長）　それでは、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては委員長、よろしくお願いいたします。

長岡委員長　それでは、本日の議題に入ります。

議題１の「川崎市上下水道事業中期計画の進捗管理について」事務局からの御説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長　（資料１を説明）

長岡委員長　ありがとうございました。ただ今の議題の説明について、御意見・御質問等ございましたら、お願いいたします。

平井委員　御説明ありがとうございました。P. 7 の水道管路の耐震化の指標の「重要な管路の耐震化率」で目標を下回ったとされていますが、要因はどのようなものか、また対策はどのようにされるのでしょうか。もう１つが、P. 10 の重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策について、先日私の住んでいる高津区で大雨の冠水被害があり、小学校の下校時間と重なったこともあり、初めて怖さを目の当たりにしました。ここには重点地区としては載っていないのですが、ここ以外の地区で起こる思わぬ大雨には今後どのように対策を進めていくのでしょうか。

水道計画課長　まず取組 10 の水道管路の耐震化についてですが、「重要な管路の耐震化率」は近年伸び悩んでいるところです。要因について、まず、避難所や災害拠点などの重要な施設へつながる供給ルートが、重要な管路となっておりまして、それとは別に以前から進めている老朽配水管にあたる鋳鉄管の古い管路も、重要な管路として設定されております。そのうち避難所などの施設への供給ルートの耐震化は、令和５年度に完成しておりますが、古い管路については更新が滞っております。道路の工事を予定されていることや、分断された形で管路が残されているものなどが更新できていないため、目標を達成できておりません。

今後の対応としましては、京都で大規模な鋳鉄管の漏水があり、国土交通省から「鋳鉄管更新計画」を策定するようにと管路更新の指導が来ております。そのため「鋳鉄管更新計画」を今後策定していく予定でして、道路管理者である建設緑政局と調整しながら効果的に更新を進めていけるよう検討しているところです。

下水道計画課長　浸水対策についての御質問ですが、川崎市として 1 時間当たり 52ｍｍの降雨に対して整備を進めてきたところです。また降雨が多くなってきていますので、現在 58ｍｍに上げた取組や、1 時間当たり 92㎜ の床上浸水にならないような減災対策にも取り組んでいるところでございます。この進め方が、資料にありますとおり「重点化地区」を定めながら取り組んでおりまして、費用や時間もかかりますので全市の浸水リスクを評価したうえで、リスクの高い箇所から順次進めております。今後については、引き続きリスクの高い地区を順次取り組んでいくこと、また浸水の実績が出てきましたら「局地的な浸水箇所」対策として取り組んでまいります。整備水準を超える雨が降ったときは、市民の皆様の水防活動や避難行動が重要でございますので、ハザードマップの公開など、必要な情報の周知を引き続き図ってまいりたいと思っております。

長岡委員長　今のような雨に関する説明は記載していないのでしょうか。想定した以上の雨が降った時にどうするのか、市民は知りたいと思いますので、書かれていると良いと思います。

下水道計画課長　御指摘のとおりこちらの評価の資料には書かれておりませんが、中期計画では浸水対策の全体像を記載させていただいております。指標に対する評価はこちらのようになっております。

長岡委員長　P. 7 の「重要施設への供給ルートの耐震化完了率」は水道だけの指標ですが、下水道も

同じく進めていると思います。上下一体でということを謳っているので、上下合わせた指標はないのでしょうか。

下水道計画課長　令和７年１月に上下水道の一体的な耐震化計画の策定をしております。

長 岡 委 員 長　次の中期計画には出てくるということですね。

ほかにありますでしょうか。

岩　澤　委　員　P.14 の人材育成の推進についてお伺いしたいと思います。政令市だけでなくほかの市もそうですが、近年、受験者が少なくなり途中退職者が増えてきていて、市としての魅力が欠けているのではないかと思います。希望を持って入庁してきても、川崎市の仕事はこんなものなのかと思われ、高い評価など期待に応えられるものが職場の中で乏しいのではないかと私は感じます。この取組のアンケートひとつ取っても非常に回答者数が少なく、職場の醸成が低下しているのではないかと思います。回答者を増やして、そこで出た意見を吸い上げ、若者を育てていってほしいと思います。目標値も 61.5%は低いので 70%くらいの高い目標値にしていただきたいです。管理職の方に力を入れてもらい、水道と下水道が一体になったことですし、川崎市上下水道の魅力を叩き込まないといけないと思います。研修は参加しているだけで終わってしまっているので、職場の中で課長さんが指揮をとって育てていかなければと私は思っております。人材育成に関しては目標値を上げて、各々の思うことはあるかもしれませんが、管理者を中心に職員の育成に力を注いでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

総　務　部　長　大変貴重な御意見ありがとうございます。岩澤委員のおっしゃる通り令和６年度の実績値が低い結果は問題となっております。実績値 55.3%は全職員が回答した結果ではなく、７割程度の回答での数値になります。逆に考えますと７割の回答に関わらず 55.3%浸透していると回答いただきました。仮に全職員が回答していた場合は８割程度の職員が浸透している回答になったのではないかと思います。先程のお話でもありましたが、人材育成は魅力向上が重要だと感じており、上下水道局に配属された一人ひとりに、市民の命や生活を守る重要な仕事であるというやりがいを教えながら、エンゲージメントを上げていく取組を行っていきたいと思っております。

島　田　委　員　P.3 の入札不調は、人件費や物価高騰などの状況がありますが、積算が民間と合わないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

水 道 計 画 課 長　基本的に多くの公共工事は公共単価というもので決まっております。地域ごとの差はありますが、川崎市だけ単価を上げることはできないようになっております。ただ、設備系に関しては、複数の会社に見積もりを取ったうえで設計に採用していることもあります。水道に関しては、管路工事は基本的に不調になることが少ないですが、設備系の災害が起きたときに稼働する自家発電設備などは、複数の業種を組み合わせたことや、実際の単価と見合わないため不調が生じてしまいますが、改善するように今後も努めてまいりたいと思います。

西　川　委　員　先程の人材育成のアンケートの質問に対する回答で確認したいのですが、55%くらいの方は後ろ向きな回答をされていて、残りの３割は前向きな回答なので合計８割くらいの方が前向きな回答と説明されていたが、乱雑してしまっていますがその理解でよろしいでしょうか。

総　務　部　長　上手く説明ができておらず申し訳ありません。アンケートの回答率が 72.6%で、回答

していない 27.4%を分母に含め否定的な意見とした結果、肯定的意見が 55.3%になっております。アンケートの回答率 72.6%のうち 55.3%が肯定的意見であることの比率を、仮に全職員が回答した場合に当てはめると、あくまで推定値ではありますが粗々に計算した結果８割程度となっております。

西　川　委　員　　私が申し上げているのは、自分たちで自分たちの状況を把握しようとするときに、あまい問いの数字を出すというのは自制するという意味であまり良い自己認識ではないと思うということです。

　このアンケートから教えていただきたいのですが、事務職員と技術職員の温度感に関心があるのですがその点いかがでしょうか。

長岡委員長　　それを細かく分析できないのかということですね。

総　務　部　長　　詳細な資料が手持ちにないため、申し訳ありませんが委員会終了後に資料を御提供いたします。

西　川　委　員　　なぜそのようなことを申し上げるのかいうと、人材育成はとても大事だと思っていて、数値の低い回答の職員に合ったアプローチがあるのではないかと思います。現状を甘く判断せず、改善するためにどのようなアプローチが有効なのか考える力が求められていると思います。数字を厳しく見たうえで改善につなげていくことが有益なのではないかと思いました。

総　務　部　長　　御意見ありがとうございます。職種ごとのアンケート結果を分析して参考にさせていただきたいと思います。

長岡委員長　　P.13 の上下水道の魅力の情報発信についてですが、やったかどうかが記載されていて、本来であれば市民のアンケートに基づいて、魅力を感じているかの分析をするべきではないかと思いますので、次回からはアウトカムをしていった方が良いのではと思いました。

長岡委員長　　それでは続きまして、議題２の「次期上下水道ビジョン・中期計画の策定について」説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長　　（資料２～６を説明）

長岡委員長　　ありがとうございます。それでは御意見お願いいたします。

石　山　委　員　　DX に関することが散見していますが、経営基盤の点もありますし、ベテラン職員の退職、若年労働者の減少など人材が減っていく状況を考えると、世の中も AI の活用にシフトしてきています。今後 AI などを使ってどのくらいまで取り組んでいくのか、またその結果として上下水道の少人化をどのように図っていくか、そういった観点はどこに記載しているのでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長　　御意見があったとおり DX が散見しておりますが、資料４の上下水道中期計画の素案、P.77 の取組 40 にまとめて掲載がございます。例えば、お客さまの利便性につながる取組であれば、記載のような給水装置や工事関係業務のデジタル化への取組、また地方税統一 QR コードの導入といったものがあります。先ほどにもありましたが、上下水道お客さまセンターの問い合わせ等についても AI を活用していくとしており、スマートメーターについても検討の必要があると考えております。次のページにいきまして P.78 で、人口減少していくことを踏まえ、管路・管きょの効果的・効率的な点検・調査について、水道では人工衛星による漏水検知技術の活用、IoT 技術や AI を活用した漏水常時監視の範囲拡

大できないか、下水道に関しては下水管きょやマンホールのAIによる劣化診断の導入の検討をしています。ほかにも維持管理や危険情報の周知など、DX関連で推進できればと、こちらでまとめております。

石山委員　こういうのは全国の自治体でどこも同じ問題意識を抱えていると思いますが、川崎市だけでなく、大きな単位でこの問題を考えていくことはできないのでしょうか。

経営戦略・危機管理室長　当然全国的な課題ですので、国が中心となって行う支援制度などもありますが、これを推進する人材がなかなかいないので育成をどうするのかということは、全国の自治体で課題を抱えているところでございます。川崎市としてもどうしていこうかというのが1つ大きなところでございます。支援を頼りにしながら、IT技術を扱える人材を増やしていくことが課題とされております。

石山委員　そういったことは中期計画で、AI人材をつくっていかなければと、川崎市として独自に取り組んでいるのでしょうか。

経営戦略・危機管理室長　まだまだこれからですが、独自の取組になります。

長岡委員長　AIでカバーしているという大きい方針があると思うので、そういったものをマークして見せてほしいと感じました。

経営戦略・危機管理室長　課題として感じておりまして、第1回経営審議委員会でのディスカッションの内容を御紹介させていただいたと思うのですが、局内で「職員が足りなくなってきたらAI技術は必要になってくる」という課題は、職員間の中でも共有しております。実際に職員が減っていくのは10年後でして、それまでには実現していかなければと考えております。

舘委員　先程、スマートメーターのお話がありましたが、現時点のスマートメーター普及率はどのくらいなのでしょうか。また、資料5のP.11お客さまの利便性の向上で、AIを含むデジタル技術を活用しながら対応したいということですが、実際に私はお客さまセンターに電話したことはありませんが、お客さまセンターの問い合わせ内容はどのようなものか教えていただけますでしょうか。

サービス推進課長　お客さまセンターのデジタル化に関しては、現状実現可能なところですと、引っ越しなどの手続に関しては現在オペレーターが対応していますが、これをAIに置き換えて対応していこうと考えております。お客さまを待たせないように工夫していきたいと思います。

水道計画課長　川崎市内のスマートメーターはまだ整備ができておらず普及率は0%です。過疎地域ではスマートメーター化が進んでいるところもありますが、スマートメーター導入は検針委託と比較すると圧倒的に価格が高いため、現在において川崎市は検針委託で行っておりスマートメーター導入に至っておりません。スマートメーターの価格を下げていくためには、標準化を図っていく必要があり、2030年代までに全導入していくことを計画に、東京都、大阪市、横浜市が先導して取り組んでいるところです。他都市の進捗も確認しながら情報共有していき、導入の検討をしている状況です。

山下委員　資料3の概要版について、特にP.2のグラフが細かく、また多いと感じました。ここに記載していることは社会背景としてある程度の市民の方が分かっていることなので、例えば自然災害の箇所はグラフではなく、川崎市で起きた豪雨の写真などにしても良いのではないかと思いました。

資料4のP.49防災・減災に向けた連携と啓発について、市内に154カ所マンホールト

イレが整備される計画があると聞いていますが、こちらに全く記載されていません。もし、記載できるなら記載したほうが良いかと思いました。

P.81 のコラムのタイトルに「料金制度等見直しの広報活動」と書かれていますが、このタイトルであれば「こういう風に広報した」などの手法が書かれているはずなので、タイトルと内容が合っていないように感じました。

長岡委員長　最後の指摘に関連しますが、全体的に事象がやったか、やらないかの内容なので、もう少しアウトカムを強化するようなもののほうが良いのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

ほかいかがでしょうか。

平井委員　資料３のP.３上下水道ビジョンの目指す将来像についてですが、将来像２の強靭で「災害に対して強くしなやかな」とありますが「しなやかは」どういった意図で使用しているのでしょうか。意味を調べても想像がしにくいので教えていただけますでしょうか。

長岡委員長　市民にわかりやすくということで、いかがでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長　業界ではよく使われる言葉ですが、「しなやか」は冗長性があると言ったりしますが、管路の二重化など、１つの管路がだめになってもほかの管路で水が補えるというように、強いだけではなく、災害に対して冗長性を有することを「しなやかに」という意味で使用しております。

長岡委員長　イメージが湧きにくいので、注釈等使い市民にわかりやすくしてほしいと思います。

中野委員　資料４の P.80 の取組 42 の財政基盤の強化ですが、経常収支比率は収益と費用のバランスですよね。料金体系の話なので料金の収入を強調されていますが、費用面について、コスト削減や維持管理費用、あるいは再生可能エネルギーの内容などの記載はできるのでしょうか。

経営戦略・危機管理室長　経常収支比率は料金を上げればここの数字が変わってきますが、自由に料金を上げられる立場ではないので、費用については削減したうえで適正な料金設定をしていき、経常収支比率を使って表しています。費用削減効果についてもどこかで表せるよう検討していきます。

長岡委員長　先ほどの話でもありましたが、AI などを使って表してみるなど、ご検討ください。

舘委員　上下水道ビジョンはどなた向けなのでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長　もちろん職員も見ますが、市民に向けて、わかりやすさを一番に考え策定しております。

見山委員　深掘りした内容があってもいいのではと個人的には感じました。新しい技術をどう集めるか、市民向けの広報の書き方をどうするか、これからはネット社会ですのでやり方を変えていかなければならないと思いました。

長岡委員長　予定した議題は以上でございますが、委員の皆さまから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、事務局にお返しいたします。

事務局（経営戦略・危機管理室長）　長岡委員長、ありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましては、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

次回の経営審議委員会につきましては、１月中旬ごろの開催を予定しております。後日、皆様と日程調整をさせていただきながら決定したいと考えておりますので、その際は

御協力をお願いいたします。

　また、部会員の方におかれましては、現在日程調整中ではございますが、１１月下旬に第８回部会の開催を予定しておりますので、お忙しいところ恐れ入りますが、そちらについても御協力をよろしくお願いいたします。

　それでは、本日はありがとうございました。